



立花 敏男氏

## ビジネスリーダーの役割「後継者の育成」

—私の実践してきた方法—

リーダーに求められることは、組織のパフォーマンスを最大限に引き上げ、目標を達成して成果を出すことです。同時に「考えるリーダー」に育つ有能な人材を育成する力が求められます。

キヤノン(株)

周辺機器事業本部  
副事業本部長・理事

73年キヤノン販売(現キヤノン・マーケティング・ジャパン)に入社。国内営業を経て77年キヤノン(株)へ移籍。79年から88年までニューヨーク駐在。帰国後、海外事業に従事し国際企業間のビジネス交渉を進める。03年周辺機器第二事業部長。05年同第一事業部長。07年から現職。KAE23期生。(財)生涯学習開発財団認定コーチ。

No.1  
5-20  
(水)



坂本 忠弘氏

## どうする!? あなたの金融座標軸

金融行政での経験、金融現場での実践、会社経営での金融。多彩な経験をもとに、激動する金融情勢を読み解きながら、これからのリーダーに求められる、金融の本質を見る目を養います。

地域共創ネットワーク(株)  
代表取締役

90年東大法学部卒、大蔵省入省。証券取引等監視委員会、財務省主計局、金融庁監督局、金融担当副大臣秘書官等を歴任。07年地域共創ネットワーク(株)設立、地域金融機関の新たな融資・投資のソリューションの提供、中小企業や地域資源を活かした事業活動の支援等を行う。社会起業家・ソーシャルベンチャーのネットワークの中心としても活躍。

No.2  
6-10  
(水)



石渡 美奈氏

## 老舗企業の経営革新

—改革はあなたから始まる—

老舗メーカーの三代目女性経営者が、組織体質を改善し、社員の行動変容を促し、いかにして5年で年商3倍、年30%の増益に導いたか、組織革新のあり方のヒントを掴んで頂きます。

ホッピービバレッジ(株)  
取締役副社長

90年立教大学文学部卒業後、日清製粉(株)(現日清製粉グループ本社)入社。93年(株)I&S、95年東京ガス(株)勤務を経て、97年ホッピービバレッジ(株)入社。広報宣伝担当を経て、02年同社取締役就任。03年同社取締役副社長就任。ブログ「3代目ホッピーミーナ跡取り修業日記」、著書「社長が変われば会社は変わる」(阪急コミュニケーションズ)。

No.3  
6-24  
(水)



大和田 哲男氏

## 世界を変える日本人

—セル・アライブ・システムで食の保存革命—

急速凍結とセル・アライブ・システム(CAS)機能を組み合わせる事により、細胞組織を蘇らせ、これからの食品の冷凍と医学界での身体組織及び再生医療の分野を大きく変えます。

(株)アビー  
代表取締役社長

菓子製造装置メーカー、食品メーカーを経て66年(株)大和田製作所に入社。89年に退社、同年にアビーインダストリー(株)を設立、代表取締役社長就任。98年(株)アビーに社名を変更。CAS(セル・アライブ・システム)技術の開発を推進。01年に最初の実用システム完成以降、同氏の研究に世界が注目。

No.4  
7-8  
(水)



館岡 康雄氏

## 「させる能力」から「してもらい能力」へ

—21世紀型実践経営のエッセンス—

真のリーダーシップとは何でしょうか? 不確実性、複雑性の高い時代には、人間性を踏まえた経緯や深い経営学が不可欠です。独自の視点から東洋の経営の神髄を展開します。

静岡大学大学院 教授  
事業開発マネジメント専攻  
元日産自動車(株)人事部

79年東大工学部卒、日産自動車(株)入社。中央研究所、生産技術部等を経て、05年より人事部にて、日産復活の本質(日産ウェイ)の確立と伝承に従事。役員向けMOT研修を立ち上げる。98年新経営パラダイム論を提示。08年静岡大学大学院工学研究科教授。支援研究会主宰。著書「利他性の経済学」(新曜社)など。

No.5  
7-22  
(水)



平井 陽子氏

## 女性社員の早期育成と戦力化

—あなたの会社は、いかがですか?—

女性社員に、本当の戦力として活躍して貰うために、①経営トップの問題意識や会社の姿勢 ②組織風土 ③職場の上司など、制度以外の環境をどのように整えるべきかを考えます。

HRコーディネイター

84年(株)リクルート入社。就職情報誌の編集制作を経て90年営業課長。93年ダイエーOMC通販事業を担当。94年東京電力系通信事業会社PHSの(株)アステル東京へ2年間出向し営業・企画開発を担当。97年(株)リクルートへ戻り、教育研修企画営業部門にて大手企業担当。99年退職、独立して現職。

No.6  
9-2  
(水)



宮田 秀明氏

## ビジネスリーダーの構想力を養う

—ヨットで世界と闘った東大教授が語るプロジェクト・マネジメント—

世界一を目指してアメリカズカップを闘うためには、最高レベルの構想力と組織マネジメント力が必要であり、世界最高のビジネスを実現するためにも同じ構想力・人間力・行動力が必要なのです。

東京大学 教授  
工学博士  
工学系システム創成学専攻

72年東大工学系大学院修士課程修了後、石川島播磨重工業(株)を経て東大に勤務。78年工学博士。工学系大学院システム創成学専攻を担当。94年より同教授。専門はCFD、船舶システム開発、流体力学、技術マネジメント、社会システム工学(経営科学、サービス科学)。

No.7  
9-16  
(水)



雨宮 清氏

## 地雷除去に挑む—豊かで平和な大地への復興—

「本当の社会貢献、国際貢献は地雷を除去することだけではない。」日本の町工場のオヤジが「世界を救う日本の技術」を生み出しました。それは地雷除去に留まらず、地雷で汚染された土地を肥沃な大地に生まれ変わらせる機械です。まさに命がけの活動をお話します。

山梨日立建機(株)  
代表取締役社長

山梨県出身。70年に現在の山梨日立建機となる建設機械会社を設立。商用で訪れたカンボジアで地雷被害者の悲惨な姿に遭遇したのをきっかけに95年より地雷除去機の開発に着手。現在も世界各地で地雷除去に対する積極的な取り組みを行なう中、全国で地雷被害の現状を訴えている。

No.8  
10-7  
(水)



大島 希巴江氏

## ビジネスに活かすユーモア —固定概念から脱却し、逆境に強くなる—

企業の現場でユーモアの効用と重要性が理解されてきました。ユーモアは問題と直面したときに、正攻法でぶつかるだけでなく、違った切り口からの解決策を生み出します。

文京学院大学 准教授 教育学博士 外国語学部  
93年コロラド州立大ボルダー校卒業。国際基督教大大学院にて教育学博士号(社会言語学)を取得。現在は文京学院大学外国語学部准教授。97年より英語落語海外公演ツアーを主宰、出演。「NHKスペシャル〜笑いがビジネスを変える」などにも出演。現在NHKラジオ「World Interactive」にレギュラー出演中。

No.9  
10-21  
(水)



黒川 伊保子氏

## 感性マーケティング —市場の気分を読み解き、時代の風を読む脳科学—

脳のパフォーマンスを最大にして、「無邪気」に最大の成果を上げることこそ「感性の世紀」と言われる21世紀のビジネスパーソンのためにはないでしょうか。大人の脳のパフォーマンスを最大にするための、脳科学の最新の“知”をご紹介します。

(株)感性リサーチ 代表取締役  
83年富士通ソーシャルサイエンスラボラトリに入社、AI開発に携わりヒトとロボットの対話を研究。03年(株)感性リサーチを設立し現職。日本感性工学会評議員。近著に「無邪気な脳で仕事をする」(ファーストプレス社)、「恋愛脳」(新潮文庫)。

No.10  
11-11  
(水)



福嶋 正氏

## 潜在能力を出し切るためのチーム作り —実業団駅伝優勝監督に学ぶ実践法—

駅伝では、総合力でチームが最大の成果を上げる努力が求められます。自分を超越する選手を育て、1人1人に最大限の力を発揮させながら、チームを優勝に導いた実践例をお話します。

富士通(株) 陸上競技部 監督  
選手時代、93年全日本実業団対抗ハーフマラソン大会優勝、93年 第4回世界陸上1万m出場、00年全日本実業団駅伝優勝などの実績を残す。99年プレイングコーチ、02年コーチを経て、04年より監督。08年北京オリンピックには創部以来最多の6名の選手を輩出。09年1月、全日本実業団駅伝で優勝。

No.11  
11-25  
(水)



新井 純孝氏

## より充実した働き方とキャリア開発のすすめ

社員に対する「会社のキャリア支配と社員のキャリア依存」の構図から、お互いがイコールパートナーへ。企業における会社と社員の関係、社員に対するキャリア開発と支援のあり方を考えます。

(株)JSOL HR本部 人事部長  
前職の日本IBM(株)にてサービス事業部門の人事・研修部門を担当し、人材育成や制度づくり、キャリアカウンセリングの仕組みづくりに携わる。06年(株)日本総合研究所に転職。現在、分社化後の新会社(株)JSOLで人事制度の改定に携わる。KAE19期生。米国CCE, Inc. 認定 GCDF-Japanキャリア・カウンセラー。

No.12  
1-20  
(水)



駒沢 紀明氏

## 花王ウェイの実像を語る —理念を行動へと導くリーダーの役割—

歴代トップの経営観を身近に感じてきた中で、「花王ウェイ」策定の過程と、経営理念が第一線で息づくために、リーダーの果たすべき役割について考えます。

花王(株) 人材開発部門 人材開発グループ 課長  
84年花王石鹸(株)(現花王(株))入社。家庭品販売部門業務品部に配属。87年花王高等専修学校(教員)、90年花王(株)霞ヶ浦研修所マネジメンツスクール、94年東北花王販売(株)流通開発G、97年花王(株)人事部門教育センターを経て現職。00年花王元会長常盤文克氏が「知の勉強会」を立ち上げた際の中心人物の一人。KAE Ex11期生。

No.13  
2-17  
(水)



高橋 一朗氏

## 新たな企業価値の創造 —新時代の企業博物館を目指した鉄道博物館— 〈鉄道博物館の理念づくり〉

いまだに、企業博物館は本来の企業活動とは別個のものとする人が非常に多い。しかし、企業博物館ならではの価値創造ができるのではないかと。そして、その新しい価値は、企業博物館により多くのお客さまに来ていただくことによって、さらに高まっていくのではないかと。このような問題意識から、どのようにして鉄道博物館の理念が作り上げられていったかをお話します。

東日本旅客鉄道(株) 総合企画本部 国際部 次長  
85年日本国有鉄道入社。87年東日本旅客鉄道(株)入社。03年4月から2005年6月まで鉄道博物館プロジェクトに従事。KAE Ex10期生。ビジネスプロデューサー養成講座第1期生。



本間 俊浩氏

## 〈理念の実践のプロセス〉

プロジェクトメンバーの中で唯一鉄道博物館の構想段階から開業・運営まで携わった立場から、理念に根ざした計画の策定と実行、とりわけ新しいパラダイムともいえる鉄道博物館の理念を実現するのにいかに苦労したか、残念ながら成し得なかったこと、現在も実現に向けて続いている取り組みなども交えながら、お話します。

東日本旅客鉄道(株) 東京工事事務所 副課長  
96年東日本旅客鉄道(株)入社。03年4月から2008年3月まで鉄道博物館プロジェクトに従事。

No.14  
3-17  
(水)



瀧本 泰行氏

## デフレ脱却の第三の道

デフレ不況からの脱却のポイントは消費の拡大です。低迷する消費を拡大するため「可処分所得」重視から、発想を転換して「新しいお金・可処分時間」の拡大策を提唱します。

(株)エアリンク 名誉会長 可処分時間研究所 代表  
70年一橋大卒。学生時代に生活協同組合役員となり、専務理事として経営にあたる。そのまま大学生協の全国連合会に就職。新規事業を担当。旅行事業や学生向け共済保険など新規事業を成功させる。その後、日本生協連の経営指導担当を経て、会員向け旅行会社(株)エアリンクを83年に設立し、代表取締役。06年同社名誉会長となり現職。

No.15  
4-14  
(水)